



現状の把握 (ビジネス力)

クライアントの経営課題をヒアリングし、事業背景や市場、競合を深く理解。データサイエンティストは「問題発見」の感性を持つことが重要です。



仮説の立案 (ビジネス力、データサイエンス力)

特定した経営課題を具体的なデータ分析の課題へと落とし込み、解決すべき問題に対する仮説を立てます。計画通りに進まないことを前提とした「創造的なエンジニア」である視点が重要です。



データ収集・加工 (データエンジニアリング力、データサイエンス力)

仮説検証に必要なデータを収集し、分析に適した形に加工します。機械学習モデルの予測精度を左右する「特徴量エンジニアリング」が含まれます。



仮説の検証 (データサイエンス力)

収集・加工したデータを用いて機械学習モデルの構築や統計分析を行い、立案した仮説が正しいかを検証します。分析手法の本質を理解し、データから情報を正しく読み解く力が求められます。



結果報告・コンサルテーション (ビジネス力)

分析結果をビジネスに有益な情報として整理し、クライアントにプレゼン。ビジネス成果に繋がる知見や次のステップを提案する、実践的なスキルが問われます。



開発・運用 (データエンジニアリング力)

分析で得られた知見を基にデータ活用のシステムを開発し、運用・保守を行います。時系列予測モデルでは、モデル精度の低下を防ぐための継続的なモニタリングとチューニングが重要です。